

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	青森県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	弘前市立船沢中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	2	1	5	13
生徒数	38	40	44	1	123	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の育成を目指した指導方法・指導体制の研究
 - 「わかる」から「できる」の指導過程を取り入れて -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

・全学年・全教科
 生徒たちは「わかりたい」「できるようになりたい」という願いを持っている。この願いを実現させるためには、学校で習得する全学年の全教科での研究が必要であると考え。

(2) 年次ごとの計画

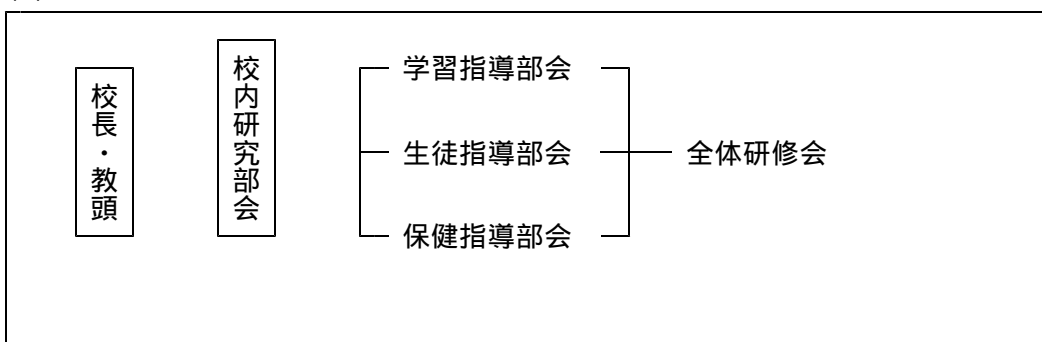
平成14年度	
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 確かな学力の育成を目指した指導方法・指導体制の研究 - 「わかる」から「できる」の指導過程を取り入れて -</p> <p>研究の見通し(仮説) 各教科において「わかる」から「できる」という実感を味わわせることによって確かな学力が身に付く。</p> <p>研究の内容・方法 (1) 学習指導の中に「わかる」「できる」の指導過程を取り入れる。 (2) 5教科の授業のはじめにウォーミングアップタイムを設ける。 (3) 授業の中に学んだことを声に出させる場面 群読 を設ける。 (4) 授業の中での学習形態(全体思考・グループ思考・個別思考)を工夫する。 (5) 帰りの学活に10分間その日の学習内容をカードに問題形式にまとめて班内で交換採点させる。 (6) 選択教科は学年の枠を取り外し、個に応じた補充的・発展的な学習をする。</p>
--------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 確かな学力の育成を目指した指導方法・指導体制の研究 －「わかる」「できる」から「高まる」をとおしての授業改善－</p> <p>研究の見通し 各教科において「わかる」「できる」から「高まる」という指導過程を取り入れることにより、学習の広がりやつながりをもつことができ確かな学力が身に付く。</p> <p>研究の内容・方法 内容 (1)「高まる」の指導方法のあり方について実践をもとに研究する。 (2)漢字・計算・英単語などの基礎学力の向上を図る。 (3)学習集団づくりの徹底と、学習成果の共有のための方法を研究する。 (4)教科の特性を踏まえた指導力の向上を図る。</p> <p>方法 (1)「高まる」に関わる教材の開発に努める。 (2)基礎学力向上のためにウォーミングアップタイムをより一層充実させる。 (3)群読を通して学習内容の定着を図るとともに、学習成果を共有させる。 (4)授業アンケートをもとにして指導法の長所を伸ばし、短所を改善する。教師間の相互評価を導入する。</p>
----------------	--

* 平成15年度からの新規校については、平成15、16年度の計画について記入すること。

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- * 3年数学の実力テストにおいて、8月には50点以上が13名であったが、11月には18名(38%)に上昇した。英語も10名から18名(55%)に上昇した。
- * ウォーミングアップタイムによって、生徒の授業への集中力が高まるとともに、基本的な漢字・計算・英単語の習得において点数・タイムの上昇が顕著に見られる。
- * 「わかる」から「できる」に注目して授業改善を行うことができた。「できる」の段階を深めるための時間をとることによって生徒は達成感を味わうこと

ができるようになった。

- * 生徒からの授業評価を行うことで、教師が自分の授業について生徒の視点に立って振り返ることができ、教師の意識改革を図ることができた。

2. 今後の課題

- * 「わかる」「できる」の具体的な指導や支援の方法について指導案の中に書き表すようにしたが、まだ十分とは言えない。特に、課題をつかめなかったり、見通しを持ってない生徒にどのようにかかわることが有効か、さらに研究を深めたい。
- * どんなにすばらしい指導体制をつくりあげたとしても、最終的に決め手になるのは一人一人の教師の授業である。充実した授業づくりのためにはそれぞれの指導方法の長所を伸ばし、短所を改善していくことが何より必要である。
- * 学力を根底から支えるものとして、望ましい生活リズムや学習の習慣化のためにも保護者との連携をより一層密にする必要がある。

学力把握のための学校としての取組

- * 標準学力検査結果の分析
結果を詳細に分析し、日常の授業にそれをどう生かすか、具体的に記述してもらうとともに実践に努めてもらった。
- * 授業アンケート
研究テーマに沿った形での質問項目に対して4段階で生徒に評価してもらった。そう評価した理由についても書かせた。最後に授業への要望についても書いてもらい、先生方には改善点の解消に努めてもらった。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 学力向上地区協議会を通じて、研究の成果や今後の方向についての情報交換を行った。
- * 学区内の小学校との交流協議会において趣旨説明を行った。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- | | | | | |
|----------------------|--|---|--|---|
| 【新規校・継続校】 | <input checked="" type="checkbox"/> 15年度からの新規校 | <input type="checkbox"/> 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | <input type="checkbox"/> 3学級以下 | <input checked="" type="checkbox"/> 4～6学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 7～9学級 | <input type="checkbox"/> 10～12学級 | | |
| | <input type="checkbox"/> 13～15学級 | <input type="checkbox"/> 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | <input type="checkbox"/> 少人数指導 | <input type="checkbox"/> T・Tによる指導 | | |
| | <input checked="" type="checkbox"/> その他 | | | |
| 【研究教科】 | <input checked="" type="checkbox"/> 国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 社会 | <input checked="" type="checkbox"/> 数学 | <input checked="" type="checkbox"/> 理科 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 外国語 | <input checked="" type="checkbox"/> 音楽 | <input checked="" type="checkbox"/> 美術 | <input checked="" type="checkbox"/> 技術・家庭 |
| | <input checked="" type="checkbox"/> 保健体育 | <input type="checkbox"/> その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | <input type="checkbox"/> 有 | <input checked="" type="checkbox"/> 無 | | |